

令和元年11月29日

筑紫野市議会  
議長 高原 良視 様

会派 つくし野  
議員 原口 政信

## 第14回全国市議会議長会研究 フォーラム参加・行政視察報告書

会派つくし野が参加した研修について、以下の通り報告します。

### 記

#### 1. 視察日程

令和元年 10月30日(水)～11月1日(金)(2泊3日)

#### 2. 視察先及び研修項目

- ・「第14回全国市議会議長会研究フォーラム参加」  
高知らばさんセンター(高知県高知市 布師田3992-2)
- ・「商店街の活性化について」  
高松丸亀町商店街(香川県高松市丸亀町)
- ・「地域の活性化について」  
ふたみシーサイド公園(愛媛県伊予市双海町高岸甲2326)

#### 3. 視察者

会派つくし野

横尾 秋洋	大石 泰	鹿島 康生	赤司 泰一
下成 正一	高原 良視	平嶋 正一	原口 政信
波多江祐介	八尋 一男	城 健二	合計 11名

#### 4. 内容 別紙のとおり

10月30日（水）

■第14回全国市議会議長会研究フォーラム

【研修目的】

本市議会は、議会への多様な人材の参画や、議会改革の深化を図っているところである。本フォーラムにより、全国の市議会議員が一堂に会し、議会の役割の更なる充実をめざし、共通する課題や今後の議会の在り方について意見交換を行うとともに、議員同士の一層の連携を深めることを目的に、視察を実施したものである。

【内容】

第1部 基調講演

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

中島 岳志 氏（東京工芸大学リベラルアーツ研究教育院教授）

1. 政治のマトリクス
2. ラディカルデモクラシーとポピュリズム
3. リベラルの逆説
4. 保守とは？

第2部 パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

★坪井 ゆずる 氏（朝日新聞論説委員）

- ・行政監視機能をどうやって高め、成果を上げてゆくか。
- ・地域の将来を見据えた政策論議をすすめるために必要な視点。
- ・候補者男女均等法のもとで、「老老男男」の実態をどう変えられるか。
- ・規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」への対処。
- ・住民の関心を高めるには、なにをすべきか。

★高部 正男 氏（市町村職員中央研修所学長）

- ・市議会についての現状認識。
- ・自治体議会をめぐる状況変化。
- ・今後の自治体会議の在り方。

★横田 響子 氏（株式会社コラボ代表取締役）

- ・人口減を前提に、中長期視点で街の目指す方向を議論。
- ・ガチンコ会議を多様な人材で実施。
- ・経験の機会提供。

★古川 康造 氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

- ・土地の所有と利用を分離した、市中心部の土地有効活用。

- ・新しい商店街のかたちを目指す。
- ・再開発成功の大前提はコミュニティーの現存。

★田鍋 剛 氏（高知市議会議長）

- ・高知市の概要。
- ・人口態様。
- ・市議会議員について。
- ・議会改革の取り組みについて。

◆総評

全国市議会議長会研究フォーラムは、名の通り全国からの市議長・市議会議員等約1,000人以上が、高知地場産センターで一堂に会し実施されたもので、講演者の中島 岳志 氏をはじめ、パネリストの坪井 ゆずる 氏・高部 正男 氏・横田 響子 氏・古川 康造 氏・田鍋 剛 氏等、そうそうたる顔ぶれにより、フォーラムが開始された。

内容的には、マトリクスーリベラル保守等のかなり高レベルの話から、パネルディスカッションによる、ご当地坂本龍馬の船中八策になぞらえた、「議会活性化のための船中八策」は、今後の筑紫野市議会において、現場の課題とその対応策等について生かせる有意義な話であった。

10月31日（木）

■第14回全国市議会議長会研究フォーラム

【内容】

- ・課題討議

コーディネーター 坪井ゆずる 氏（朝日新聞論説委員）

事例報告者

滝沢 一成 氏（上越市議会議員）

若手や女性議員が立候補していただけるように「市議会を目指しやすい環境整備の検討会」一年間検討してきました。現状は、端的に言えば「男性の年配の集まりではないか」そう言った危機感がありました。3年前に女性議員1名、今回は0名です。現職も持ち上がりで平均年齢も高い状況であります。「議会の存在価値、やり甲斐、面白さ、全然感じません問題」というものを解決しなくてはなりません。そのうえで物理的な、「選挙費用、身分や報酬の不安、それからひと」という不安を乗り越えなくてはなりません。そこで「ホワイトボードミーティング」という手法を取り入れました。この方法では他者の意見をまとめて書い

たり、記載することで内容の変化がわかり易い。問題解決のために何をやるのかの議論では、大きな声や強い人、ベテランの方の意見が通る手法ではないのです。

久坂くにえ 氏（鎌倉市議会議員）

「女性議員の現状と視点」とのテーマを頂いております。現職で初めて出産しながら活動を続けております。今、このような議員が全国で約150名とされています。対して、地方議員、町村も含めて約3万7千5百名の議員がいます。率にして0.04%となり、レアな存在になっています。活動を続けていく中で、困難や壁も感じますが、解決の手法を見つける必要があります。しかしながら地方議員全員が直面する課題は、「地方議員の身分が明確でない」これにつきます。

小林 雄二 氏（周南市議会議員）

「議会基本条例に拘らず取り組む議会改革」とテーマを頂いております。議会改革の目標は、住民投票により議会解散に至った経緯を踏まえて「市民により開かれた議会」として、「公開」と「対話」をキーワードとしています。議会改革へ市民参加を促すとともに関心を持っていただけるよう取り組みました。首長だけでなく、議長や副議長の資産公開も実施。議員も所得等の報告書を義務付けしました。これまでに順次積極的に取り組んでまいりました。執行の監視はもちろんのこと、執行機関に対して課題等を提起することにより、効率的、効果的な事務執行を促しているところです。





## 「商店街の活性化について」

高松丸亀町商店街（香川県高松市丸亀町）

議長会初日で古川 康造 氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）よりご講演を頂きました。テーマは①土地の所有と利用を分離した、市中心部の土地有効活用。②新しい商店街のかたちを目指す。③再開発成功の大前提はコミュニティーの現存でありました。現地に向かい視察を行いました。

高松丸亀町商店街は、「まちづくり戦略」としてコンパクトシティの具現化に取り組んでいます。背景には、中心部の空洞化、急速な人口減少など全体を支える行政コストが出なくなってきた。そのため、都心に機能を集積し、税収の稼ぎ場を活性化しなければならない。しかし、規制を以って人々を移住させるなんてあり得ないため「土地の所有と利用の分離」を図り、土地の有効活用を考えた。

・丸亀町再開発計画の全容

商店街全体を6街区に分け、それぞれに役割を持たせた。

A街区： ドーム広場&高級ブティック街

B・C街区：美、健、ファッション街

D・E街区：ファミリー&カジュアル街

D街区： お祭り広場&地産地消街

インフラの再整備

- ・住宅整備・診療所・介護施設・生鮮4品の市民市場・子育て支援施設
- ・市民広場・ホームセンターの誘致・町営（温泉施設・映画館・まちバス）

※中心市街地の活性化は、農地の再生にもつながる。

11月1日（金）

■「地域の活性化について」

ふたみシーサイド公園（愛媛県伊予市双海町高岸甲2326）

説明者：若松進一（愛媛県の地域づくりリーダー）

伊予市移住サポートセンター代表他

さら 代表（脳と身体とこころの断捨離店）

【双海町の概要】

1955年比較で人口半減以下の3700人、2005年4月伊予市と対等合併（37000人）高齢化率50%、何もない町で過疎化が進み住民から嘆きが出ている。そこで総務省出身の富田 敏を迎え移住政策を推進、8世帯（小学生20人）を迎え入れ翠小学校（24人）2億円かけてリフォームし地域の協力の下、特色ある分校として残り、まちづくりに大きく寄与している。また、人間牧場の提唱者、双海町役場出身の若松進一氏、夕陽をコンセプトにしたまちづくりで、コンサートとか真似しない、真似できないアイデアで地域力をあげている。

【視察目的】

人口減少で過疎化が進み高齢化率50%、海と山しかない、限界集落になりつつある日本の随所にみられる地域だが、何もないから何でもできる真逆の発想でまちづくりを推進、夢を描き人を動かす、人財を育て若者が来るまちを基本に夕陽でまちおこしされているカリスマ、子ども時代からふるさと教育の若松進一氏に学び本市に活かす。

【内容】

- ・名刺の裏にCMを載せて（裏が味噌）10万円の賞金ゲット、販売増に大きく貢献している
- ・夕陽をコンセプトにしたまちづくりを紙芝居で紹介
  - …飛行機が夕陽に、飛行機のタマゴ、夕陽を拾う人、モニュメントに夕陽が、だるまの夕陽
- ・JR予讃線に菜の花（JRの反対に對しまいたのではなく自然に落ちた）7万人が来た
  - …スイセン畑・サクラ・コスモス畑も作り 若い人が来るまちづくり これが基本である
- ・大根に足を引っ張られ、盆栽に目をつまねながら海岸清掃を5時～8時退職まで毎日実施

- ・Xmasに電飾。しかし、数では隣町に負ける、ならばパラグライダーでサンタが空から来る
  - …観光ガイド100選にも載り年間55万人がシーサイドに来客、オンリーワン、マネするな
- ・翠小学校ではホテル祭り、メッセージを書き風船で飛ばす
- ・寅さんコンサート、夕陽でまちおこし34回となる
- ・人間牧場について
  - 子ども体験塾、ふるさとに誇りを持たせることが大事
  - ジャガイモ畑、ミツバチ、里山運動でドングリから芽を出し、植えるとクヌ木にカブトムシ200匹を寄付
- ・4畳半の囲炉裏で話し合う、まちづくりが大事、何もないけど何でもできる
  - よそ者・ばか者・大ばか者、違う人と違う人で意外なことができる
- ・丸木舟・モアイ 3年前から交流、過去未来をどう結びつけるか
- ・海岸の整地を県に提案するも前例がないとの事で3年間塩漬け、ならばということで建設省に交渉、珍しいということで補助金を頂いた

#### 【意見交換】

- ・子どもの体験学習は20年間続けている
- ・町名変更でリコールとなり町長が変わり一時左遷されたが、その後前町長が返り咲き、町長に要求「金出せ・口出すな・責任取れ」で100万円の旅費で2人の青年を米国へ1か月間旅行に出し、人材育成・人づくりを基本とした。
- ・子ども時代からふるさと教育、これからのまちづくりキーワードは3つある「楽しい、美しい、新しい」である。
- ・区長と自治公民館長はまちづくりの基本、良く協力してくれている、そこに移住して来た人が活躍してくれている。単なる統合合併の国策はおかしい、へき地は益々人口減少に繋がる。特色ある学校は残すべきである。

#### 【まとめ】

優れたリーダーが、移住者と地域住民をうまく巻き込み、その気にさせ主体性を持つように仕向け、それを行政がサポートする動きである。移住者のパン屋さんが4年で生計が立つよう自立できたのは、味は勿論だがリーダー・地域・行政のサポートがあつてこそと思う。子ども教育を地域で支えている分校は正にコミュニティスクールの原点であり、人間教育が徹底して行われ双海町の独自性や自主性を根付かせている。

